

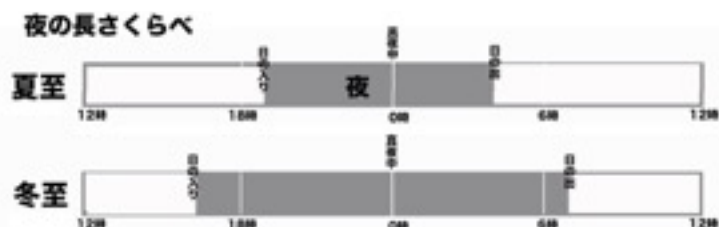
クルリン と ほしぞらさんぽ 6月号**宇宙へのはじめの一歩！****ほしぞらさんぽ、やってみましたか？**

朝明るくなるのがずいぶん早くなりましたし、日が沈むのも遅くなりましたね。防災無線の夕焼け小焼けが聞こえてもまだまだ遊んでいられるでしょう。

夏至げし

6月21日（日）は、北半球では1年の内でもっとも昼間の時間が長い夏至げしです。伊勢原のあたりでは、日の入りの時刻が午後7時ちょうどぐらい、日の出の時刻は午前4時25分ぐらいで、夜の長さは約9時間25分とチョー短いのです。

反対に12月の冬至とうじの日には、日の入りは午後4時32分ごろで、日の出は午前6時47分ごろ、夜の長さは約14時間15分ですから、なんと夜の長さが5時間近く違うのですね。



夜が短くなりました。あなたは星を見る？ 月を見る？

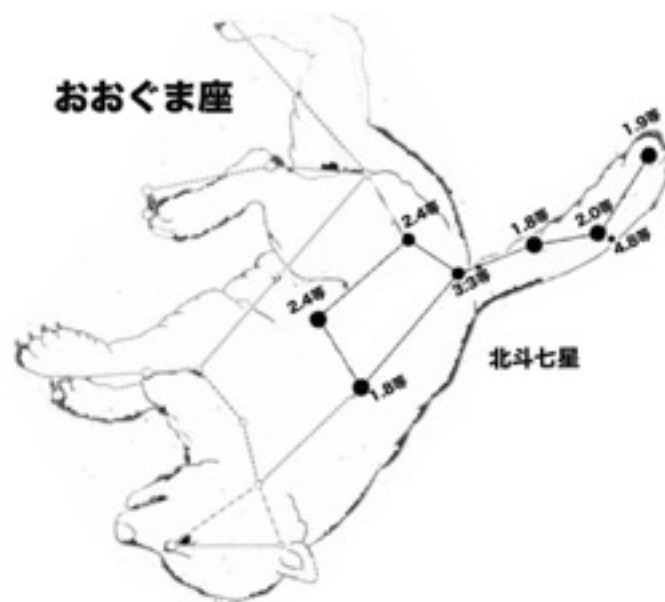
望遠鏡で月を見よう、撮影さっえいしよう

子ども科学館の観察会「**クーデの日**」は、6月20日、7月25日、8月22日、いずれも土曜日です。その後も月1回のペースです。月面を望遠鏡で観察するんだけど、毎回月の欠け方が違うので、違う写真が取れますよ。

星を探そう

南の低い空に**さそり座のアンタレス**が見えているはずです。**アンタレス**はほぼ1等級、まだ高度が低いのでベガほどは明るく見えないけれど、かなり赤っぽいことは双眼鏡があれば確認できます。さそり座は夏の星座ですので、また書きますね。

北の空。大きなひしゃくの形が空にっ立っていますよ。**北斗七星**ですね。北斗七星は星座の名前ではなく、**おおぐま座**という星座の一部分です。春から夏の時期には北斗七星がはっきりと見えます。北斗七星が見えると**北極星**がを見つけやすくなりますよ。北極星は2等星なので伊勢原の明るい夜空でも見えますから、ぜひ探してみてください。北極星は**こぐま座**にあります。こぐま座もひしゃく形で、北斗七星よりだいぶ小さいひしゃくになっています。



春の星座がまだがんばっています

6月の南の空は星座としてはまだ春の空で、見上げると、春の星々の代表「春の大曲線」が南から西の方に傾きかけています。春の星座のしし座・かに座・おとめ座はもう西の低い空に移ってしまいました。夏の星々はやっと東の方に見え始めています。

夏の大三角も見えそうかな？

大三角を作る3つの星の中で、一番明るいのがこと座のベガ（0.03等、距離25光年）。表面温度が高いので色は白色、9600℃だそうですからほぼ1万℃ですね。ちなみに太陽の表面温度はだいたい6000℃だそうですよ。こと座は夏の星座ですが、北天にあるので1年のうちかなり長い間見ることができる星です。ベガは日本では織姫おりひめ星と呼ばれていました。

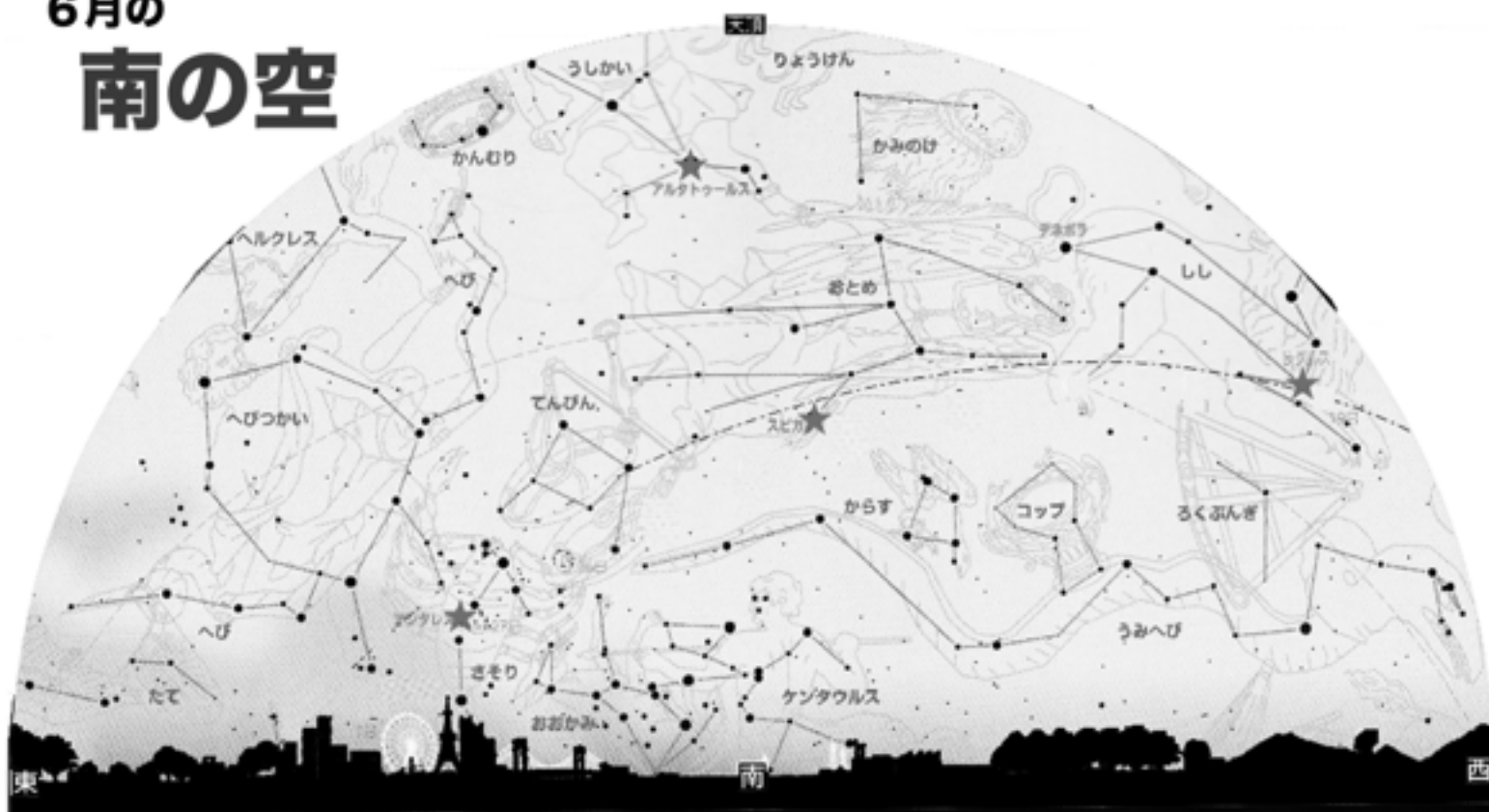
次がわし座のアルタイル（0.76等、距離16.7光年）で、七夕の彦星です。そして3つの中でちょっと暗いのがはくちょう座のデネブ（1.25等、距離1400光年）です。



はくちょう座のデネブは実はとても大きな星なのですが、距離が遠いので他の二つよりも暗く見えているのです。

七夕の星が見えているということは、天の川も見えるはずですよ。伊勢原の夜空では無理ですが、夜空が暗い地方に行くと、はくちょう座のデネブは天の川の中にあることがわかります。ですからはくちょう座の周りには星がぎっしりと集まっています。もし空が真っ暗だったら東の空に天の川が見えているはず。伊勢原の空では天の川は全く見えませんが、それでも双眼鏡で見ると、細かい星がいっぱい見えてきます。

6月の南の空

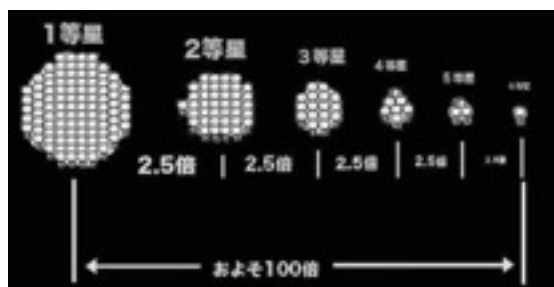


さそり座

南東の低い空にさそり座の頭にあたる小さい3つの星が並んでいます。9時過ぎになると**さそり座のアンタレス**（1等星〔0.9～1.2等〕、距離550光年、表面温度が3000℃）が見えてきますよ。赤色超巨星なので赤っぽく見えます。表面温度3000℃はずいぶん低いですね。

明るい星・暗い星

現代では明るさをデジタルで測定できて比べられますので、**こと座**の明るい星**ベガ**を0等として星の明るさを決めています。6等星よりも2.5倍明るい星を5等星、5



等星よりも2.5倍明るい星が4等星……1等星は2等星より2.5倍明るいとしています。ですから1等星は6等星よりもおおよそ100倍も明るいということになります。

さらに1等星の2.5倍明るい0等、0等よりも2.5倍明るい星はマイナス1等としています。

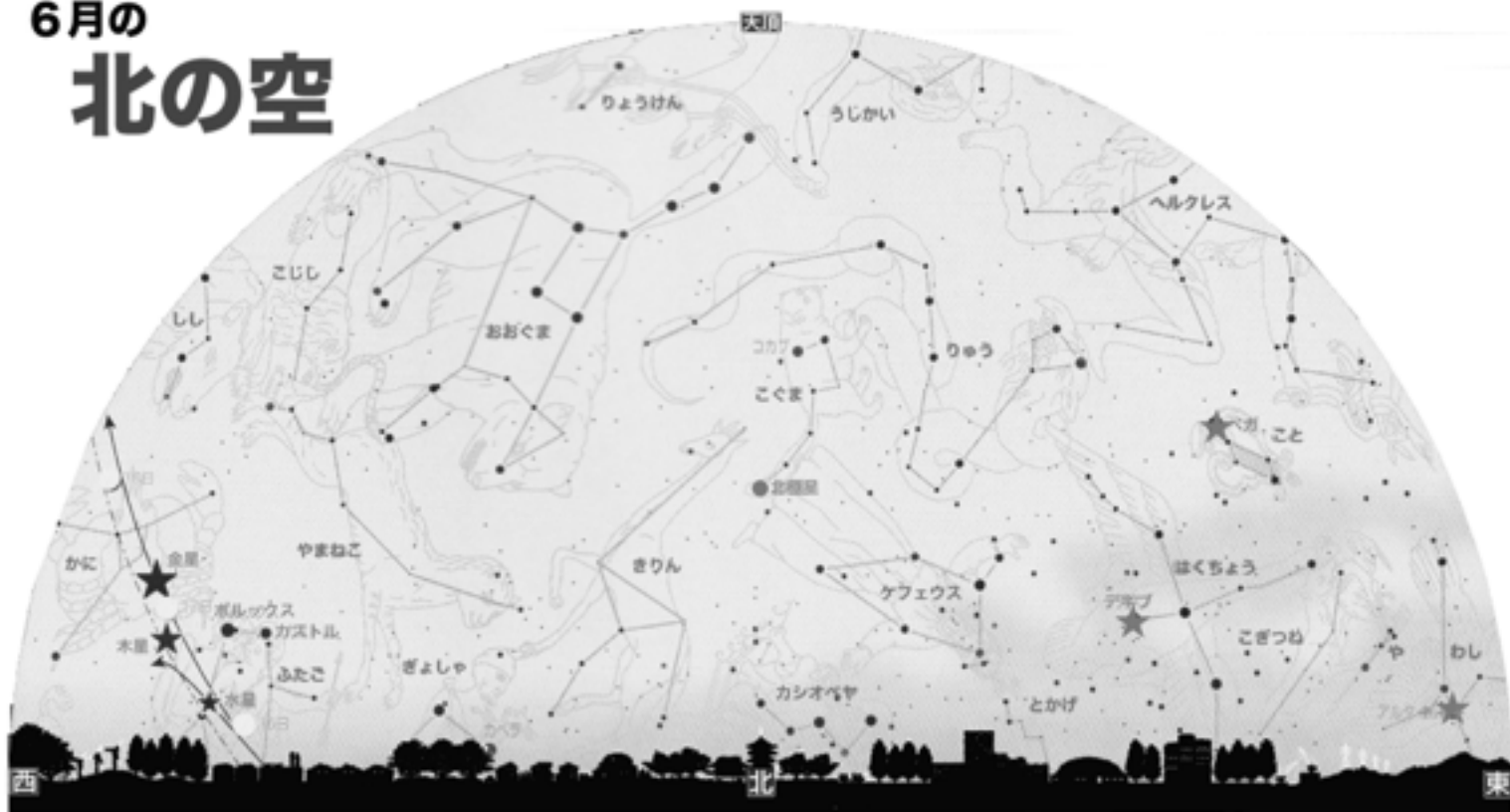
これら星の明るさは地球で見る見かけの明るさで、それぞれの星の本当の明るさではありません。だって、同じ明るさに見える2つの2等星だって、遠くにある星は近くにある星よりも、本当はずっと明るくかがやいているはずでしょう？

星の色は？

6月には**うしかい座**の**アルクトゥルス**と**おとめ座**の**スピカ**で色比べをしてみましょう。家族でそれぞれ色を言葉で表現して、だれの表現が一番近いかななんてゲームみたいにしてみるといいかな。

でも伊勢原の明るい夜空では、見える星の数が少ないですね。そんな時に助けてくれるのが「双眼鏡」です。双眼鏡は、レンズを使って星のかすかな光をいっぱい集めてくれる光学機器で、暗い星でも肉眼で見るとよりもずっと明るくはつきりと見えるようにしてくれます。

6月の北の空



改めて双眼鏡を買うのではなくて、ありあわせの小さい双眼鏡でも、肉眼よりかなり明るく見えると思います。

望遠鏡は、かすかな星の光を集めてくれます。



「星図せいず」を使う

知らない土地に行った時にたよりになるのは地図ですね。ほしぞらさんぽでも星の世界の地図=星図がないとまい子になりますね。

星図がほしい？ 一番手っ取り早いのは、図書室で「星座図鑑」とか「夏の星座」とか星座の本を探すことです。本の中には必ず星空の地図が星座ごとにのっていますし、季節ごとの星空の地図=星図がしょいかいされています。子ども向けの星座の本はたくさんあるので、いくつか比べて一番読みやすい本を借りてきましょう。そして一番気に入った本を本屋さんで自分のおこづかいで買ったらいいいね。かんたんな星図でも役にたつよ。

国立天文台のサイトから全天の星を丸い図にした「6月の東京の星空」を探すこともできます。

注意：4年生なら誰でも持っている星座早見盤の図は、あるていどの見当は付けられるけれど、この図はものすごくゆがんでいるので、この図だけで星の位置を覚えようとするとう無理があります。

水星・金星・木星を見よう

地球の兄弟星と言われる金星や水星そして木星、どれも太陽の周り

を回っている惑星わくせいですね。他の星（恒星こうせい）よりずっと明るく見えていますが、自分で光を出している星ではありませんね。惑星は年によって見える季節が変化します。

木星は今は西の空に明るく輝いていますから簡単に見つかります。金星は地球よりもずっと太陽の近くをまわっている星なので、なかなか見るチャンスがありません。それが、この6月には太陽が沈んでから西の空を見ると、2時間ぐらいの間、明るく輝く金星が見られ、チャンスなのです。

水星は金星よりさらに太陽に近いので、太陽からほんの少ししか離れることがありません。だから太陽が西に沈んだ直後に少しの時間だけ見えるのですよ。

金星も水星も1年中いつも見えるわけではありません。今年の6月には、同じ日に水・金・木と3つの惑星を見られるチャンスが来ます。何時ごろ？ 時刻は太陽が沈んでから空が暗くなるまでの間（天文薄明はくめいと言います）です。何日に見えるかって？ 下の図をよく読むと、見える日がわかりますよ。

